

JAEA 大洗内部被ばく事故に対する水平展開の 問題点への事業者対応方針

資料 3

2017 年 9 月 29 日
日本原燃株式会社

1. 経緯

- ・ 2017/6/ 6 JAEA 大洗研究開発センターの汚染および内部被ばく事故が発生
- ・ 6/ 9 安全担当副社長が緊急点検を指示
- ・ 7/21~8/ 2
当該事故の進展に応じた情報共有と同様事象の水平展開の検討を依頼
⇒ ウラン汚染時の対応訓練等を実施
- ・ 8/21~9/22
第 2 回保安検査において次の指摘を受けた
⇒ 当社施設の特徴を踏まえた深掘りが不十分、問題点の認識が限定的、
対応が遅い等

2. 主な原因

(1) 全社

- 大洗事故のような重大な事象の水平展開の仕組みに関し、以下の問題があった。
 - ・ 事象の重要性に応じ、専門家を含めた全社大での検討体制がとれなかった。
 - ・ 水平展開の範囲が同様事象の発生防止に重点が置かれ、当社施設の特徴を踏まえた検討が不足した。

(2) 再処理事業部

- 計画、実施、検証の各過程で施設の特徴に応じたリスクの抽出、対策検討が不足したこと、また事業部における実施体制が不明確で計画の見直し、チェックが十分に行われなかった。

(3) 濃縮事業部

- 計画段階において当該事故を自らの施設の課題に置き換え、施設の特徴に応じたリスク（放射線、フッ化水素）を踏まえた、速やかに実施すべき項目、その期限の設定、期限内に目標を達成するための課題の解決といった対応をしなかった。

3. 今後の主な対応

(1) 全社

a. 水平展開ルールの見直し

⇒重大な事象の水平展開は、経営層の参画に加え、リスク抽出の観点から各事業部の専門的知識を有するメンバーを参画させ、全社的な体制を構築する(9月末)。

b. 大洗事故に対する計画書の作成(9月5日に制定済み)

⇒速やかに当該事故の水平展開計画書を作成し、強化した体制のもと水平展開を実施する。

(2) 再処理事業部

a. 検討体制の明確化、強化

⇒当該事故のような重大な事象が発生した場合は、事業部幹部、専門的知識を有するメンバーを参画させる体制を構築するとともに、事業部内の実施体制を明確にする。

b. 訓練の強化

⇒今回の事象を踏まえ、従来実施していた訓練に加え、化学物質単独の被災を想定した訓練等を計画・実施する。

(3) 濃縮事業部

a. 濃縮工場の特徴を踏まえ、リスクおよび速やかに実施すべき事項を改めて明確にし、完了目標時期を設定する。

b. フッ化水素曝露対応訓練、内部被ばく対応訓練を実施する(9月6日までに個別訓練を完了、9月28日に総合訓練を完了)。

以 上